



SANKIグループの全体像をよりの確に、わかりやすく伝える 統合報告書「SANKI REPORT 2012」を発行

当社はこのたび、新たなコミュニケーションツールとして「SANKI REPORT 2012」を発行しました。
「SANKI REPORT 2012」は、業績推移や決算等の財務情報、事業概要やガバナンス、社会貢献等の非財務情報を統合的に整理した媒体をめざしました。当社グループの全体像をよりの確に、わかりやすい形でステークホルダーの皆さまに伝えていくことが、その目的です。

第1号となる今号では、特集コンテンツとして『三機工業のあゆみ』と題したページを設け、創立から現在までの当社の歴史をたどり、総合エンジニアリング企業としての技術の変遷を紹介しています。また、Q&A形式による社長インタビューを中心に、2011年度の事業トピックス、次年度への取り組み、省エネ・CO₂削減に関する技術開発情報等を掲載し、セグメント別情報も充実しました。

今後は、さらなる内容の向上を図り、トップメッセージによって経営スタンスを明示しつつ、経済、社会、環境的側面から見た1年間の活動を報告していきます。

「SANKI REPORT 2012」誌面紹介



『三機工業のあゆみ』
当社の歴史を当時の写真と年代ごとに掲載し、わかりやすく皆さまにご紹介しております。



当社について、より深くご理解いただけるようセグメント別の解説やCSR活動など多角的に情報を掲載しております。是非ご覧ください。

「SANKI REPORT 2012」は、こちらのホームページよりPDFデータをダウンロードしてご覧いただけます。<http://www.sanki.co.jp/csr/>



〒104-8506 東京都中央区明石町8の1 聖路加タワー
TEL.03-6367-7081 FAX.03-5565-5123
<http://www.sanki.co.jp/>



環境に配慮した
「ベジタブルオイルインキ」を
使用しています。



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。

株 主 通 信

第2四半期決算のご報告

[2013年3月期]
2012年4月1日～2012年9月30日



証券コード：1961



代表取締役社長執行役員

梶浦 卓一

株主の皆さまにおかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。2013年3月期第2四半期決算のご報告にあたり、一言ご挨拶させていただきます。

わが国経済は、東日本大震災からの復興需要に支えられ回復の動きがみられたものの、新興国の成長減速や欧州危機の長期化を受けて足踏み状態となりました。建設投資の状況は、公共投資に緩やかな持ち直しの動きが表れましたが、民間設備投資は、企業収益の下振れにより回復基調にいたらず、厳しい事業環境が続きました。

こうしたなかで当社は、中期経営計画（SANKI VITAL PLAN 90th）の2年目の取り組みとして、コア事業においては、積極的な省エネルギー提案等により対応力強化を図っております。同時に、当社独自の省エネルギー技術開発や、海外事業拡大に向けた拠点整備等を進めております。これらの施策をスピード感を持って実行していくことで、真の総合エンジニアリング企業として、新たな成長性を確保するとともに、より大きな社会的貢献を果たしてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社事業へのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2012年12月

TO OUR SHAREHOLDERS

上半期のご報告と通期の見通し

当社は現在、重点ターゲットに位置付けている学校、病院、介護、医薬および食品関連業種の受注拡大に向けて、営業担当間の水平連携を強化しております。当上半期の営業活動には、その成果が表れはじめ、主力の建築設備事業で受注高が増加しました。しかし、主として環境システム事業において前期に長期の大型複数年保守契約等多額の受注実績があった反動により減少し、全体の受注高は822億4千1百万円（前年同期比0.6%減）にとどまりました。

売上高は、建築設備事業における前期繰越工事の増加が大きく寄与した結果、全体で639億4千万円（同10.3%増）と増収を遂げました。

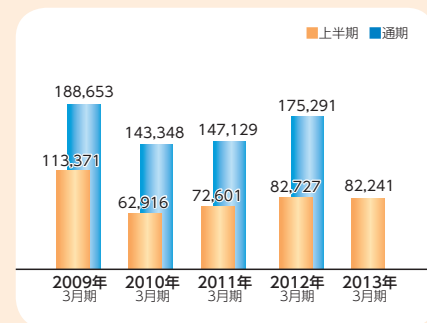
利益面は、増収の影響やグループ全体での経費削減徹底の結果、営業損失19億3千4百万円（前年同期は営業損失23億5千8百万円）、経常損失17億7百万円（前年同期は経常損失22億9千万円）、四半期純損失12億6千9百万円（前年同期は四半期純損失17億3千5百万円）と、

いずれも前年同期と比較して改善しました。

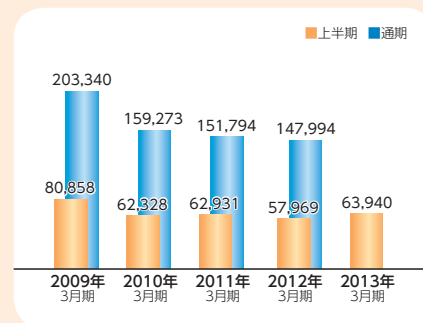
下半期以降の事業環境は、円高の固定化や中国リスクの高まりにより、景気の停滞感が強まる一方、国内メーカーの海外生産シフトが加速するなど、当面厳しい状況が続いていくものと思われます。そのなかで当社は、事業部間の連携強化に向けた社内改革をさらに推進し、お客さまのニーズに対して各部門が協力しやすい組織づくりに取り組んでまいります。特に、情報の共有化と技術の相互提供に重点を置き、総合エンジニアリング企業としてのグループシナジーを最大限に発揮していく考えです。

以上を踏まえ、通期の連結業績予想については期初の予想数値を維持し、受注高1,750億円（前期比0.2%減）、売上高1,700億円（同14.9%増）、営業利益32億円（同26.7%増）、経常利益34億円（同49.9%増）、当期純利益18億円（同922.7%増）と、増収増益を見込んでおり業績回復に努めてまいります。

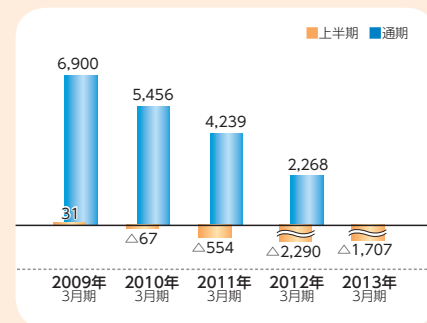
●受注高 (百万円)



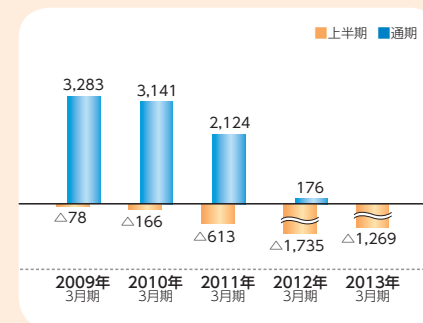
●売上高 (百万円)



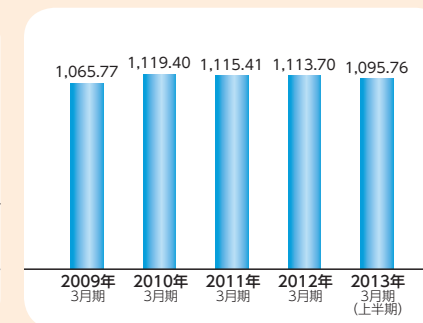
●経常損益 (百万円)



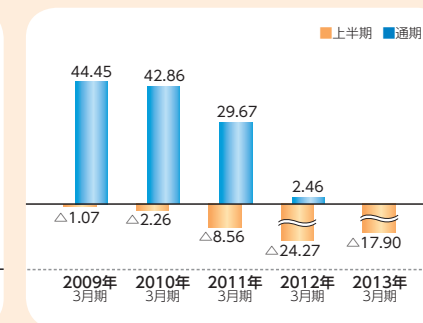
●四半期(当期)純損益 (百万円)



●1株当たり純資産額 (円)



●1株当たり四半期(当期)純損益 (円)



新たな価値を創出し、社会を支える 三機の総合エンジニアリング力

社会の要請に対して、技術力を活かしたソリューションを提供すること。それが当社の使命です。ここでは、産業の最前線における生産技術のサポートや、健康を守る医療環境の向上など、新たな価値を創出する施工事例を紹介いたします。

施工例

1

自動車性能試験用の大型環境風洞に挑戦

マツダ株式会社耐候実験棟環境試験設備

自動車の車両性能開発では、さまざまな実車性能評価を行う設備が重要な役割を担います。マツダ株式会社では、極寒地や熱帯地域などの地域環境条件を再現する環境試験設備が導入され、当社はその設計・施工を担当しました。

本施設には、低温条件と高温条件を再現する2つの環境試験室があり、ともに大型の環境風洞設備*を採用しています。

今回、当社は、大型軸流ファンを上階機械室に設け、風洞本体は製缶でなくパネルとすることで、風洞の大型化を実現するとともに、施工重量・熱容量の削減と工期の短縮につなげました。

また、冷却・加熱・加湿を行う風洞温調コイルは、温度制御精度を向上させるため、冷却源は間接冷却方式を用い、加熱源は電気ヒータ、加湿源は蒸気としました。

当社は、新たなニーズへの的確な対応はもちろん、短工期化やメンテナンス性向上など付加価値の提案も含めた総合エンジニアリング力で、社会への貢献を果たしてまいります。

※風洞設備：実車走行に相当する空調風を車両に均一に流す設備



▲建物外観

▲大型環境風洞の吹出し口



施工担当者の声

VOICE



私自身、初の環境試験設備の施工であり、さまざまな苦労もありましたが、大変貴重な経験をさせていただきました。この現場で得た経験・知識をできるだけ多くの後進に伝えていき、若手社員の技術力向上につなげていきたいと思っています。

中国支店 建築設備技術部 前村 亨

施工例

2

医療環境の質的向上に貢献

杏林大学医学部附属病院第三病棟

杏林大学医学部附属病院は、東京西部・三多摩地域において、中核的医療センターの役割を果たす特定機能病院であり、患者・病院スタッフが、快適に過ごすことができる環境を提供することをコンセプトに掲げています。

このたび竣工しました第三病棟は1998年に竣工した外来棟以来5棟目となる免震建物であり、当社は、空調・

衛生・電気・統合ネットワーク設備工事を担当しました。

病室前の廊下に間接照明を積極的に採用することによる柔らかで落ち着いた空間の演出や病室内へのインターネット端末の設置、病院特有の臭気を除去する設備の設置など快適空間を提供しています。

また、病棟の全照明設備のLED化を実現し、高効率で冷暖房中間期などの部分負荷に対応できる熱源設備を採用するなど、省エネ対策も徹底しています。

さらには、非常用電源のバックアップ、病院全体のサーバーームを今回の免震建物へ集約化、災害断水時の井戸水の飲用利用ろ過設備の設置など、災害対策においても当社の技術が活かされています。

当社は、総合エンジニアリング技術を活かし、医療環境の質的向上に貢献しています。



▲建物外観



▲熱源機械室

施工担当者の声

VOICE



建築設備というものは、工事が完了すると大半は天井や壁の中に隠れてしまっていますが、もし不備があれば施設の機能が止まってしまう大事なものです。着工から竣工まで工程、品質管理に追われる毎日でしたが、このことを常に思いながら業務に当たってきました。我々の仕事は竣工引き渡しの後も続きます。アフターケアもしっかり行い、お客さま満足第一で頑張ります。

東京支社 空調衛生技術部 征矢 正章

社会と生活の「あるべき姿」をカタチにする 三機のオリジナルテクノロジー

当社は、持続可能な社会づくりに貢献する総合エンジニアリング企業です。ここでは、生産現場や都市インフラの進化を実現するために当社が提案した技術について、開発・導入実績を紹介いたします。

技術紹介

1

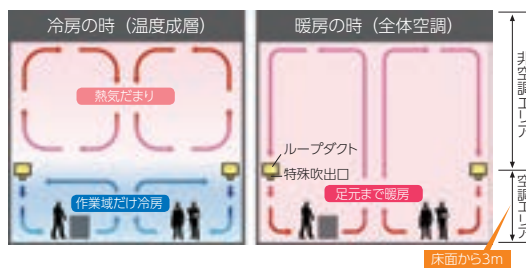
大空間の空調を効率的に行う 温度成層形空調システム

これまで、工場や体育館などの高天井・大空間における空調設備は、効率性の点でいくつかの問題を抱えていました。例えば、空調を必要とするのは、人が活動する床面2～3mまでの範囲であるにもかかわらず、大空間全体の空調に多くのエネルギーを消費します。また、一般的な置換空調方式では、夏期冷房時の省エネは図れるものの、夏冬で吹出口ごとにダンパー開度の変更を要したり、床面に大きな吹出口を設置しなければならないといった問題が生じます。

当社は、こうした大空間向けに冷暖房を高効率化する温度成層形空調システムを開発しました。本システムでは、床面3m以上の高さの壁面にダクトをループ状に配置し、ダクト下面の特殊吹出口から床面方向に高速気流を吹き出します。これにより、壁に沿ってカーテン状に下降気流が形成され、冬には、外壁から室内へ侵入する冷気を遮断し、足元まで効果的な暖房をもたらします。

また、下降気流は床面に衝突した後、室内の中央方向に向かいます。夏には、このゆるやかな気流に乗った冷涼な空気が下層に蓄積され、大空間であっても、人の活動エリア（床上3m以下）のみに冷気が供給されるので、大幅な省エネ化を図ることができます。

冷房・暖房を同一設備で運用できる、快適で省エネ性能の高い空調方式として、今後の普及が期待されます。



▲温度成層形空調システムにおける空気の動き

技術紹介

2

汎用車両に対応しつつ熱交換効率を維持 トランスヒートコンテナの小型化

トランスヒートコンテナ・システムとは、コンテナに充填した蓄熱材に排熱を貯蔵し、トラックで輸送するシステムです。工場やゴミ焼却施設などの熱源から、熱交換器を介してコンテナの蓄熱材に排熱を移し、温泉施設や病院などの需要先に供給します。

従来のトランスヒートコンテナは、輸送効率を重視して24tクラスの大型特殊車両を使っていたため、導入における初期投資が膨らんでいました。今回、当社が新たに開発中のコンテナは、熱交換効率を下げずに容量を約3分の1に小型化し、汎用の10t車両でも運用可能に

なります。これにより、廃棄物処理業者であれば、ゴミ回収等に使用している収集車両をそのまま使えるため、初期コストは大きく低減します。

今後、実用化に向けて、更なる改良を加え、導入拡大をめざします。



▲現在稼働中のトランスヒートコンテナ（24t）

技術紹介

3

国内初の病院内信号機器・電気設備 2012年度「建築設備技術遺産」に認定

1925年の創業以来、数多くの実績を積み上げてきた当社の施工案件の中には、歴史的な価値を持つものや、面白い仕事が存在します。「昭和初期の近代総合病院に日本で初めて採用された信号機器および電気設備機器」もその一つで、このたび社団法人建築設備技術者協会により、2012年度の「建築設備技術遺産※」に認定されました。

現代の病院設備の原形とされている聖路加病院が竣工したのは1933年。建築に際して当社は電気設備を施工し、米国製のナースコール、ドクターコール、ドクター出退表示など、当時としては最新の設備が導入されました。その後、同病院は1990年から建替工事を実施し、こうした古い設備機器類は廃棄されるところでした。しかし、工事

担当者らが、歴史的に貴重なものとして後年に伝えるべく保存しており、それが今回の認定につながりました。



▲ナースコール表示器と患者用押しボタン

▲インターホン設備の親機

※建築設備技術遺産：
建築設備における空調、衛生、電気、搬送の4領域に関する技術と技術者の歴史的な足跡を示す事物・資料として社団法人建築設備技術者協会が認定したもの



財務状況

(単位：百万円)

科 目	前期末 (2012年3月31日現在)	当第2四半期末 (2012年9月30日現在)
流動資産	114,866	96,917
固定資産	48,254	50,203
資産合計	163,120	147,120
流動負債	65,860	54,023
固定負債	17,597	16,897
負債合計	83,458	70,921
純資産合計	79,662	76,199
負債純資産合計	163,120	147,120

POINT

●資産

資産は、前期末と比べ16,000百万円（9.8%）減少し、147,120百万円となりました。当社グループの売上高は期末に集中するため、各四半期末の売上債権は前期末と比べて減少するという季節的変動によるものであります。

●負債

負債は、前期末と比べ12,537百万円（15.0%）減少し、70,921百万円となりました。これは資産と同様の季節的変動要因により、仕入債務が減少したことが主な要因です。

●純資産

純資産は、前期末と比べ3,462百万円（4.3%）減少し、76,199百万円となりました。配当金の支払いに加え、自己株式の取得を行った結果、純資産の減少幅は通常より大きくなっております。

経営成績

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期（累計） (2011年4月1日から2011年9月30日まで)	当第2四半期（累計） (2012年4月1日から2012年9月30日まで)
売上高	57,969	63,940
営業利益又は営業損失（△）	△2,358	△1,934
経常利益又は経常損失（△）	△2,290	△1,707
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△1,735	△1,269

POINT

●売上高

売上高は、63,940百万円となり前第2四半期に比べ5,971百万円（10.3%）の増収となりました。これは主に前期からの繰越工事が増加したことによるものであります。

●営業利益

営業利益は、1,934百万円の営業損失となり、前第2四半期に比べ営業損失は424百万円減少いたしました。これは主に増収によるものと、グループ全体で取り組んだ経費削減によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期（累計） (2011年4月1日から2011年9月30日まで)	当第2四半期（累計） (2012年4月1日から2012年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,892	5,556
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,021	△4,041
財務活動によるキャッシュ・フロー	△638	△1,520
現金及び現金同等物の四半期末残高	41,585	41,082

POINT

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に期末へ売上が集中する傾向にあり売上債権の回収が進んだ結果、5,556百万円の増加となりました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に1年超の定期預金の預入により、4,041百万円の減少となりました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に自己株式の取得と配当金の支払いにより、1,520百万円の減少となりました。



会社概要

会 社 名 三機工業株式会社
英文社名 SANKI ENGINEERING CO.,LTD
創 立 1925年4月22日
資 本 金 81億518万円 (2012年9月30日現在)
事業内容 建築設備事業、プラント設備事業、不動産事業
従業員数 連結 2,289名 個別 1,963名
(2012年9月30日現在)

事業所一覧 (2012年9月30日現在)

支 社 3ヶ所
支 店 15ヶ所
研 究 所 1ヶ所

連結子会社 (2012年9月30日現在)

三機テクノサポート株式会社
三機産業設備株式会社
三機化工建設株式会社
三機環境サービス株式会社
アクアコンサルタント(オーストリア)
タイ三機エンジニアリング&
コンストラクション社(タイ)



役員

(2012年9月30日現在)

○取締役および監査役

代表取締役 梶浦 卓一
久保田 丈夫
山下 彰夫
取締役 古村 昌人
長谷川 勉
臼井 哲夫
新聞 衛
西村 博
鱈見 満裕
常勤監査役 赤松 敬治
安永 俊克
井口 武雄
監査役 則定 衛

○執行役員

社長執行役員 梶浦 卓一
専務執行役員 久保田 丈夫
山下 彰夫
古村 昌人
諸戸 光雄
長谷川 勉
常務執行役員 臼井 哲夫
濱野 健次
玖村 信夫
水野 靖也
新聞 衛
藤井 日出海
助飛羅 力
山口 理
水島 茂
井上 忠昭
保崎 芳秋
齊藤 一男
松永 博行
岡元 正治
林 繁男
名取 秀雄
三石 栄司
古川 松雄
宮崎 和夫
渡邊 純次
福田 順一
白木 博之
西嶋 英夫
鈴木 茂
本松 卓
富田 弘明
石田 博一
福井 博俊
三富 公雄

執行役員



株式の状況

(2012年9月30日現在)

発行可能株式総数 192,945,000株
発行済株式総数 74,461,156株
株主数 4,097名

大株主

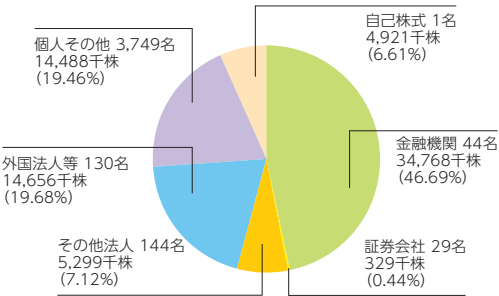
(2012年9月30日現在)

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
三井生命保険株式会社	6,700	9.63
日本生命保険相互会社	6,078	8.74
明治安田生命保険相互会社	6,000	8.63
三機共栄会	2,645	3.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,579	3.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,418	3.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,209	3.18
シービーエヌワイ デイエフエイ インター ナショナル キャップ パリユー ポートフォリオ	1,508	2.17
三機工業従業員持株会	1,181	1.70
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	1,077	1.55

(注) 当社は自己株式4,921千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
また、持株比率は自己株式を除いて計算しております。

所有者別株式分布状況

(2012年9月30日現在)



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月下旬
株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期 末 配 当 金 3月31日
(3) 中 間 配 当 金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定める。

公告掲載方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。(当社ホームページ <http://www.sanki.co.jp/>に掲載します。)

単元株式数 1,000株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザ・i-Stationを除く)で行っております。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。